

2024年度 点検・評価報告書

I 点検・評価の概要

1. 点検・評価の目的

(1) 点検・評価は、以下の目的で行う。

- ① 教育の質保証のための各学科等での取組状況・成果の可視化と、教育の継続的な改善の支援
- ② 教育改革委員会で定めた方針の各学科等での具体化・定着に係る状況の確認

2. 点検・評価の実施方法

(1) 点検の実施方法

- ① 学長室は各学科に対して点検の実施を依頼する。
- ② 各学科の学科長は、点検項目についてその時点での検討・取組状況に関する自己評価を実施し、学長室に報告書を提出する。
- ③ 報告書の作成に当たっては、所管する各学科について学部長がその作成を監督・支援する。
- ④ 各学科から提出された報告書は、学長室が内容を確認する。
- ⑤ 学長室は各学科の報告書の内容を確認後、各学科長と教育改善に向けた対話を実施し、学部・学科の検討状況、課題認識等について確認する。
- ⑥ 学長室は全ての学科の報告書をまとめ、その内容を外部評価員が確認する。
- ⑦ 全ての学科との対話を終えた学長室は、当該年度の点検結果を年度内に学長及び教学担当副学長に報告する。

(2) 評価の実施方法

- ① 学長室は、評価の対象学科に対して、評価を実施する前年度中に、次年度の対象学科である旨の決定通知を行う。
- ② 学長室は評価の対象学科に対して、評価の実施を依頼する。
- ③ 各学科の学科長は、点検項目についてその時点での検討・取組状況に関する自己評価を実施し、学長室に報告書とエビデンス資料を提出する。
- ④ 報告書の作成に当たっては、所管する各学科について学部長がその作成を監督・支援する。
- ⑤ 各学科から提出された報告書は、学長室が内容を確認する。
- ⑥ 学長室は各学科の報告書の内容とエビデンス資料を確認後、各学科長と教育改善に向けた対話を実施し、学部・学科の自己評価の妥当性や検討状況、課題認識等について確認する。
- ⑦ 学長室は全ての学科の報告書をまとめ、その内容を外部評価員が確認する。
- ⑧ 全ての学科との対話を終えた学長室は、当該年度の評価結果を年度内に学長及び教学担当副学長に報告する。

3. 点検・評価の結果の活用

- (1) 学部長・学科長は、点検・評価の結果を教育改善に係る計画・検討に活用する。
- (2) 当該学科の学科長は、点検・評価にて顕在化した課題をカリキュラム改善計画に反映する。

II 点検・評価における実施項目

点検・評価は以下の4セクションから成る9つの項目で実施する。 ※今年度より3-③学生調査の分析・活用に関する項目を追加

1. 修得目標の策定・見直し

- ① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

- ① 修得目標に対する体系性の確認
- ② 修得目標に対する有効性の確認

3. 学修成果及び教育成果の評価

- ① 学生の修得目標の達成度合いの把握
- ② 就職率・国家試験合格率の向上に向けた取り組み
- ③ 学生調査の分析・活用
- ④ 授業評価アンケートの分析・活用

4. シラバスの作成・改善

- ① 組織的なシラバスチェックの実施
- ② 担当教員間の調整

2024年度 点検・評価報告書における総評

(点検実施学科：28学科 4コース)

医学部医学科 薬学部薬学科

医療技術学部（視能矯正学科 看護学科 診療放射線学科 臨床検査学科 スポーツ医療学科健康スポーツコース
スポーツ医療学科トッパスリートコース 柔道整復学科）

経済学部（経済学科 国際経済学科 地域経済学科 経営学科 観光経営学科）

文学部（日本文化学科 史学科 社会学科 心理学科）

外国語学部（外国語学科 国際日本学科）

教育学部（教育文化学科 初等教育学科初等教育コース 初等教育学科こども教育コース）

理工学部（機械・精密システム工学科 航空宇宙工学科 情報電子工学科 バイオサイエンス学科 情報科学科通信教育課程）

福岡医療技術学部（理学療法学科 作業療法学科 看護学科 診療放射線学科）

(評価実施学科：2学科 3コース)

医療技術学部（スポーツ医療学科救急救命士コース） 法学部（法律学科 政治学科）

福岡医療技術学部（医療技術学科救急救命士コース 医療技術学科臨床工学コース）

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての学科において、すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っており、さらに、全学科の2割の学科にて、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。

・経済学部地域経済学科では、学科独自に採用が多い企業を訪問し、教育の成果・効果に関するヒアリングを行うことで、企業や地域社会に求められている教育を提供できているかを確認している。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

全学科の8割の学科において、カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科としての改善の必要性等の検討を行っている状態となっている。また、3割の学科にて、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している。

・経済学部経営学科では、履修者数が少ない分野の科目担当教員間で議論を行い、学生の体系的な履修を促せるよう必選別区分の見直しを行った。

② 修得目標に対する有効性の確認

全学科の8割の学科にて、カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている状態となっている。

・理工学部バイオサイエンス学科では、今年度入学生より、志望する分野に合わせて学修して貰いたい科目を示す分野別履修モデルの配布を始めた。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

全学科の9割の学科において、修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析しており、その結果の活用方法を学科として検討している状態となっている。一部の学科では、収集・分析した結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている。

・薬学部では、今年度の卒業生よりディプロマ・ポリシーの達成状況評価を卒業判定の一つに加える。夏に予備評価を行い、低評価があった学生は、卒業までに合格評価となるよう、今後の学修について面談を行っている。

・経済学部経済学科では、いくつかの選択必修科目を重点科目に設定し、修得度を向上させる組織的な授業改善の取り組みを始めた。履修率や単位修得率等に関するデータをもとに、FD研究会で情報共有と意見交換を行っている。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

全学科の9割の学科において、就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っており、さらに全学科の7割の学科にて、学科として維持・向上のための検討・取組を行った結果、前年度より向上が見られている。

- ・薬学部では、1年時の午後演習の時間に上級生が常駐する上級生メンター制度を新しく始めた。メンター制度を始めるにあたり、教員も正しい指導ができるよう、メンター協会によるメンター指導を受講した。
- ・医療技術学部視能矯正学科では、LMSに国家試験の分野ごとの補習動画を掲載し、学生が自身の苦手な箇所をいつでも繰り返し学修できるようにしている。出題範囲をコンパクトにまとめているので、試験対策として好評である。
- ・文学部心理学科では、早い段階で就職への意識づけをするために、1年次の必修科目において、就活コンサルタントを招聘し、「心理学」をどう社会に活かすことができるかを考える機会を設けている。

③ 学生調査の分析・活用

全学科の8割の学科において、学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている状態となっている。さらに、3割の学科にて、学生の学修時間および学修活動、満足度の数値向上のための取り組みを行っている。

- ・教育学部教育文化学科は、学科独自の学生生活実態調査を10年以上続けており、年に1回、初等教育学科と調査結果について議論をし、各教員自身が感じている実態とデータから伺える状況のすり合わせを行っている。
- ・福岡医療技術学部看護学科では、各科目における必要な事前事後学習はシラバスに明記しているが、1-2年次は学修習慣が身につかないと考え、具体的な学修指示を課題等で示すことを意識している。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

全学科の9割の学科において、授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している状態となっている。さらに、全学科の3割の学科にて、所属教員全体の平均回答率40%以上を確保し、授業評価アンケート結果の向上のために、学科で報告会等を実施し、情報共有に努めている。

- ・福岡医療技術学部理学療法学科では、授業評価アンケートの結果で、授業満足度が一定評価以下だった科目については、教育課程全体の問題と考え、学科会議で報告を行い、どのような改善が必要かを議論している。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

全学科の8割弱の学科にて、学科として組織的に修得目標のシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている。また、全学科の3割の学科にて、学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている状態となっている。

- ・医療技術学部看護学科では、シラバスに掲載している「関連科目」の授業を教員それぞれが聴講する取り組みを行っている。聴講した後は、授業内容の重複や難易度確認など授業担当者と必ずコミュニケーションをとるようにしている。

② 担当教員間の調整

全学科の8割の学科において、シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている状態となっている。また、2割弱の学科にて、シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

科目責任者に対し担当科目と新モデルコアカリとの関連付けの調査を行った。この結果を受けて、2025年度のカリキュラムマップに反映させる予定である。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【特筆すべき取り組み】

新モデルコアカリと各科目との関連付け作業、およびその結果を踏まえた学修内容の見直しによって、修得目標達成度のより客観的な評価が可能になるものと考えている。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】

今年度、担任のもとに勉強会を開始するなど6年生に対する学修指導をより綿密にするとともに、学習環境の整備を行った。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】

LMSを活用した卒業試験・国家試験対策：コロナの時期に行ったオンライン勉強会の講義動画を編集し、LMSを通じて学生が自由に視聴できるコンテンツを提供している。国試出題範囲をほぼ網羅しており、学生からも高い評価を得るとともに、卒試・国試の合格率向上に貢献している。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】

カリキュラムの系統性・体系性を可視化するためカリキュラムツリーを作成中である。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】

・就職活動の開始時期が前倒しになっている現状を受け、2024年1月より3年生を対象に就職相談窓口教員を割り当て、公表した。

・国家試験合格率の維持・向上をめざした新たな取り組みとして、2024年3月末に、3年生を対象に国家試験対策ガイダンスを実施し、早期に取り組むよう動機づけた。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】

2024年度シラバスから、教員間でのシラバスチェックにおいて修得目標の落とし込みの確認を強化し、必須確認項目として徹底した。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

2023年度より、シラバスに掲載している「関連科目」の授業を聴講する仕組みを取り入れた。積極的に関連科目の科目担当者とのコミュニケーションをもつことで、授業内容の重複の調整に向けて取り組み始めている。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【特筆すべき取り組み】

国家試験合格률을上げるために必要な情報を収集・分析し、国家試験体験テストの実施、3・4年生の留年者に対してチューターを配置、4年生の学内模試・全国模試成績下位者に対する面談・補講の実施など教育課程の改善に活用できている。

学修ポートフォリオの回答率、教員のコメント入力率が高く、修得目標の達成度合いの把握に役立っている。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格률을把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】

国家試験合格률을上げるために必要な情報を収集・分析し、国家試験体験テストの実施、3・4年生の留年者に対してチューターを配置、4年生の学内模試・全国模試成績下位者に対する面談および補講を実施している。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行い、成果を確認できている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【評価理由】

2021年、カリキュラム改正へ向けた検討会をコース内に設置し、検討結果に基づいて、2022年にカリキュラム改正を実施した。その準備期間において全教員が参画し、全ての科目について構成・表現、レベルの適切性を検証した。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【評価理由】

2021年、カリキュラム改正へ向けた検討会をコース内に設置し、検討結果に基づいて、2022年にカリキュラム改正を実施した。その準備期間において全教員が参画し、全ての科目が修得目標に対して網羅的に配置されているかを検証した。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【評価理由】

救急救命士国家試験の高率合格、高就職率及び現場で活躍できる救急救命士の育成のための方略をコースとして検討し、検討結果を反映したカリキュラム改正を実施した。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【評価理由】

全ての学年で救急救命士国家試験と同じ問題を解かせている。また、4年生では国家試験の模擬試験を実施している。その結果を検証して課題のある分野を把握し、4年生の救急救命特論の授業等により教育するとともに、新カリキュラムに反映させた。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【評価理由】

就職率、国家試験合格率は全国の同種学部以上の成績を維持している。2023年度の救急救命士国家試験合格率は100%であり、関東の大学では帝京大学だけであること。また、就職率は98.4%であること。

【特筆すべき取り組み】

国家試験に関しては、1年生から国家試験問題を解かせることで自分の現在の実力と努力の結果を把握させている。また、救急現場を模した臨床実習の実施により座学で得た知識と実際の現場での活用を図らせることで国家試験における状況設定問題に対応できるようにしている。また、年間で模擬試験21回実施しており、回答結果をその日の内に全学生ヘフィードバックすることにより、復習を促進している。さらに4年生のうち成績が悪い学生に対する特別課外授業を実施している。

就職に関しては、ライフデザイン演習において、就職先について理解させるとともに採用試験で重要となる論文作成と添削を3年生時に頻回に実施している。さらに、4年生の学生を対象に、学生指導として土日祝日を問わずエントリーシートの添削、論文添削を及び面接練習（多い学生で1人20回以上）している。また、採用面接終了後、聞かれた内容を詳細に書かせてLMSに掲示（帝京八王子スポーツ医療学科、帝京平成大学、帝京福岡の救急救命士コースにも提供）するとともに教員による面接練習で活用している。加えて、面接時の所作、集団面接要領、集団討論要領を動画にまとめてLMSに掲示している。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

【評価理由】

学生が授業時間が学年によって分散している背景を分析し、毎朝に行っている教員会議での共有を行っている。

【特筆すべき取り組み】

高頻度に行う教員会議による情報共有

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内で情報を共有している

【評価理由】

救急救命士コース内の教員の授業評価アンケートの結果は基準となる3.5以下の教員はいないこと。結果については、毎朝に行っている教員会議での共有を行っている。

【特筆すべき取り組み】

特に高評価を得ている臨床実習については、グットプラクティスとしてLMSにより板橋キャンパスで共有される機会を得ている。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【評価理由】

2021年、カリキュラム改正へ向けた検討会をコース内に設置し、検討結果に基づいて、2022年にカリキュラム改正を実施した。その準備期間において全教員で全科目について修得目標の落とし込み、ルールの設定、シラバスへの落とし込みを確認していること。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】

2021年、カリキュラム改正へ向けた検討会をコース内に設置し、検討結果に基づいて、2022年にカリキュラム改正を実施した。その準備期間において各担当教員間で講義内容の調整と関連付けを実施していること。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】

2024年度入学生より、AT資格は認定団体が受験資格のルール変更に伴い、3年生での資格受験が可能となり、それに合わせたカリキュラム変更を行った。また、資格取得については、複数の資格を取得しやすくするためのカリキュラム改革を教務委員会と学科会議で検討をしている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】

アスレティックトレーナー資格については、アスレティックトレーナー担当教員が中心となり、LMSに過去の試験問題をすべてアップする作業を行っている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析している

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内で情報を共有している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】

資格取得については、複数の資格を取得しやすくするためのカリキュラム改革を教務委員会と学科会議で検討をしている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】

就職委員が学科会議で、演習でインターンシップへの参加を促すように教員に説明をしている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析している

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内で情報を共有している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

成績不良者に対し再試験前の補講を実施する科目がある。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】

カリキュラムに関して座学担当者と実技担当者が打ち合わせを行っている。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】

各学期末で進級判定会議の実施と成績不良学生の学科内での共有を実施。それにより、成績不良者のフォロー体制の構築。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】

4年生における国家試験対策（夏・冬期講習、成績不良者に対しての三者面談や土曜日講習、チューター制度導入）を実施した。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

4年生で実施する卒業判定試験の実施方法の変更

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内で情報を共有している

【特筆すべき取り組み】

成績不良者に対しチューター制度導入や土曜講習会をおこなった。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

【特筆すべき取り組み】

アーリー・エクスポージャーとして1年生から実施される帝京八王子での臨床実習

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

各教員間でのシラバスの情報の共有し不備な箇所の改善を実施している。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

前期ガイダンス及びライフデザイン・基礎演習を使い、学科の重要科目であるミクロ経済学、マクロ経済学などの入門科目・基礎科目の計画的かつ体系的な履修を指導した。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

国際経済、経営学科とともに3学科合同で履修者数の少ない科目の統廃合を検討し、経済思想史・政治経済英語・産業・企業演習については一先ず開講数を減らし、様子を見て統廃合を将来的に再検討することとした。このうち、経済思想史については経済学説史との統合を数年後をめどに行うこととした。また、経済史概論の名称変更や基礎科目への配置換えも検討中である。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】

選択必修の内、ミクロ経済学、マクロ経済学など中核的な科目を重点科目として選び、修得度を上げるための組織的な授業改善を進めた。また、1年次での選択必修入門科目、2年次終了時点での基礎科目の履修率及び単位取得率についてFD研究会の場を借りて情報共有を行った。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】

教員会議において全教員に対し大学主催キャリア支援プログラムにゼミ生を参加させるよう要請し、全就活生がキャリア支援プログラムに参加するよう組織的に働きかけている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【特筆すべき取り組み】

教務委員会が修得目標とシラバスの整合性を確認し、科目の到達目標が修得目標に紐づけられているか、さらにはそれに対応した到達目標と授業内容が当該授業に盛り込まれているかを確認し、担当教員に適宜指導している。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

経済学の選択必修科目の中で、入門ミクロ経済学、入門マクロ経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学入門、経済史概論（すべてⅠ・Ⅱとも）については、同一科目内の全担当者間で、シラバスの内容共通化を進めている。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

【特筆すべき取り組み】

今年度初めての試みとして、学部単位ではなく、学科単位でグッドプラクティスの共有を行った。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

【特筆すべき取り組み】

学科会議において意見交換を行い確認し、必要に応じて変更・修正を加えるようにしている。昨年度、本学科卒業生の就職先企業にアンケート調査を行い、合わせて3つの主要就職先への聞き取り調査を行った上で、学科会議で内容を共有した。さらに「地域で活躍する卒業生」と刊行し、継続的に様々な業種で活躍している卒業生を紹介している。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【特筆すべき取り組み】

学科会議において意見交換を行い、確認し、必要に応じて変更・修正を加えるようにしている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【特筆すべき取り組み】

学科会議において意見交換を行い確認し、必要に応じて変更・修正を加えるようにしている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】

ガイダンスや演習、ライフデザイン演習での入力作業の実施を行っており、入力確認に関する教員向けのマニュアルを作成している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】

アクションプランに基づく学生面談を実施しており、就職に向けた意識の向上に努めている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

【特筆すべき取り組み】

ゼミ合同発表会で発表対象のゼミを増やすこととした。また、事前事後学修で新たな取組みをしている授業もある。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内に情報を共有している

【特筆すべき取り組み】

授業の初回に、到達目標の説明を積極的に行っている。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【特筆すべき取り組み】

「シラバス作成のためのガイドライン」「シラバスの書き方」をもとに、ライフデザイン演習の担当者間でクロスチェックを実施している

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

科目の内容の調整や統一はカリキュラム作成や確認を通じて学科長・教務委員が調整の素案を検討し、定期的に学科教員会議で意見交換を実施している。また、理工学部改組に伴い、関連する科目の確認を行い、より学生のニーズに合ったものになるよう検討している。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】

取得科目数が低い分野の教員との話し合い、改善について検討した。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

取得科目数が少ない分野の担当教員複数とカリキュラムの体系に課題があるかどうかを検討し、体系に課題があるのではなく、履修のさせ方に課題があるという結論に達した。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】

【2】カリキュラムの体系性・有効性の確保」の対策に合わせて、会計学関連科目の履修について見直す。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】

2年次の基礎演習・3年次の演習の学生を中心に「ビジネスプランコンテスト」を開催し、社会の第一線で活躍する企業人と接して刺激を受けられるようにして、早い時期から就職に対する意識を喚起している。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】

各教員が初回及び最終回の授業内容と修得目標との関連性を説明している。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析している

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【評価理由】

社会的な要請や学生のニーズを踏まえ、ガイドラインを中心に、履修制限の緩和やカリキュラムの統一化、授業内容の改善などの検討を継続して進めている。

【特筆すべき取り組み】

学生のニーズを把握し、満足度を高めるために、グッドプラクティスの収集を積極的におこない、演習系科目（少人数科目）などでの工夫を共有化することを始めている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【評価理由】

学長室等と連携し調整をおこなうことで、おおむねカリキュラムの体系性を維持している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】

社会的な要請や学生のニーズを踏まえ、修得目標に対応する科目の履修者数に配慮しつつ、修得目標の有効性についても継続的に注視するように努めている。

【特筆すべき取り組み】

ライフデザイン演習、基礎教養演習などの授業において、「修得目標に対する自己評価」欄の記入（の向上）を促している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【評価理由】

学修ポートフォリオのデータを分析し、カリキュラム改革の意見交換を予定している。全学年がポートフォリオを入力するようになると、学生の学修行動の内容（や変化）を（企業等に対して）伝えるツールとなるかもしれない。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【評価理由】

キャリアサポートセンターと連携し、各種国家試験・就職率などのデータの把握している。ゼミなどの少人数科目の利用して、就職先等の報告・相談を促している。

【特筆すべき取り組み】

法学部では、SPI対策Tサブリ（ラインズSPI）を導入している。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

【評価理由】

多面的な評価という観点から、学部として、小テストやレポートを課すことを推奨し、学修時間の向上に向けた試みを実施している。

【特筆すべき取り組み】

授業を実施する際の工夫についての情報を学部として共有している。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

【評価理由】

アクション・プランシートの入力強く呼びかけており、個人単位での分析・活用をおこなっている。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【評価理由】

学部としてシラバスチェックをおこなう体制がすでに整えられている。シラバス作成前にも、専任教員会議などにおいて、注意喚起などをおこなっている。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】

同一科目などで内容の差が大きくなるように、必要に応じて意見交換を行っている。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【評価理由】

社会的な要請や学生のニーズを踏まえ、ガイドラインを中心に、履修制限の緩和や、カリキュラムの統一化、授業内容の改善などの検討を始めている。

【特筆すべき取り組み】

学生のニーズを把握し、満足度を高めるために、グットプラクティスの収集を積極的に行い、演習系科目（少人数科目）などでの工夫を共有化することを始めた。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【評価理由】

学長室等と連携し、調整をおこなうことで、カリキュラムの体系性を維持している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】

学修行動調査における「大学の授業内容」に対する満足度、および卒業時調査における「専門の科目に関する学修」の役立ち度は、いずれもおおむね高い評価となっている。したがって、修得目標の達成という目的に照らし合わせると、カリキュラムの有効性は確認される。

【特筆すべき取り組み】

ライフデザイン演習、基礎教養演習などの授業において、「修得目標に対する自己評価」欄の記入を強く指示している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【評価理由】

学修ポートフォリオのデータ、授業評価アンケートデータ、学修行動調査、卒業時調査、および就職先企業等に対するアンケートデータを分析している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【評価理由】

キャリアサポートセンターと連携し、各種国家試験、就職率などの数字の把握に努めている。ゼミなどの少人数科目を利用して、就職先等の報告・相談を促している。

【特筆すべき取り組み】

SPI対策Tサブリ（ラインズSPI）を学部として導入している。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

【評価理由】

学修行動調査などにより、学生の学修時間や学修行動を把握している。その上で、多面的な評価という観点から、学部として、小テストを実施したりレポートを課したりすることを促し、学修時間の増加や学修行動の向上に向けた試みを実施している。

【特筆すべき取り組み】

演習系（少人数）科目を中心に授業における工夫についての情報を収集し、学修時間の向上に向けた意見の共有化をしている。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

【評価理由】

学部として、アクションプランシートの作成を呼び掛けており、個人単位で分析・活用している。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【評価理由】

学部全体としてのシラバスチェックを毎年おこなう体制がすでに整えられており、今後も継続していきたい。シラバス作成前にも、専任教員会議などにおいて、注意事項の周知などを行っている。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】

同じ科目の間で内容の隔たりがないように、必要に応じて意見交換をおこなっているところである。

【特筆すべき取り組み】

基礎教養演習において、ニュース検定公式テキストを共通の教材として利用し、学生の理解向上を図っている。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】

従来から学科独自の就職活動支援の取り組みとして、「就職内定者との交流会」を毎年開催している。さらに、今年度はキャリアサポートセンターのイベント案内を学科会議で教員に周知したり、内定者の4年生を対象とした学科独自のアンケート調査の実施、就職活動強化月間の実施など、例年以上の就職活動支援強化の取り組みも行った。加えて、教員免許取得者および教員採用者の数は教育学部以外の他学科と比較して極めて高く、特筆に値する。また本学科ではTサブリ（帝京大学SPI対策）を成績評価に反映させており、学科全体として1年次から就職活動に対する意識づけを高めるようにしている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内に情報を共有している

【特筆すべき取り組み】

本学科独自のFD活動の一環である授業内容改善委員会による調査により、時間外学修の向上のための取り組みについて学科内で共有するなどの取り組みを行っている。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【特筆すべき取り組み】

シラバス作成直前の段階で、学科FD活動の一環として、シラバス作成における修得目標の落とし込みの方法について再確認するための機会を設けている。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】

史学科では、就職委員が中心となって、卒業生の就職率や、3年生を対象とした全員面談の実施率等に関する情報の共有を進めたり、キャリアサポートセンターが開催する各種イベントへの積極的参加を学生に呼び掛けたりしている。また、試行的に、2年生対象の人文演習の特定のクラスで、業界・企業研究に関する授業を行い、その成果をFDで報告した。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析している

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【特筆すべき取り組み】

一昨年度の点検・評価作業で必修科目の割り当てがないことが判明していた学科修得目標6について、早急に対策を実施し、必修科目2科目の割当が前年度開始時に完了している。この後、体系性に問題はないため、今年度は特になし。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】

修得目標17「第三者が理解できるようにプレゼンテーションを行うことができる」、19「他者とコミュニケーションを行いながら、協働作業できる」のように、実社会が新社会人に求める能力と、学科の修得目標が重なっており、かつその達成度が高いこと。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】

各ゼミ（社会学演習）で行っている、就職に向けた情報共有や履修生の進路・就職に関わる相談にのったりするなどの活動について、学科会議で報告し、学科全体で共有している。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

【特筆すべき取り組み】

授業評価アンケート結果から読み取れる課題について学科教員全体に説明し、学生に日常生活の中での学修活動を定着させていくための方策について学科で検討していくことについて学科会議で議論した。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

同一科目を担当する教員に対しては「その内容を調整する機会を積極的に確保すること、およびシラバスのどの部分についてどのように統一していくかを検討すること」を要請している。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・確認をしている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】

学生の総合的英語力の向上のために、Extensive Readingを2023年度より導入した。

初年度の実施効果を判断するため、取り組み状況とTOEIC スコアとの相関関係を調査・分析した。その結果、導入以前の2021、2022年度の6月、11月TOEIC IPテスト平均合計点(ListeningとReading)が約30点伸びたことに対し、2023年度の年間伸び率は90点 まで上がり、一定の効果が見られた。

2. カリキュラムの体系的・有効性の確保

① 修得目標に対する体系的の確認

カリキュラムの体系的を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】

一年次の必修授業に導入したExtensive Reading について、一定の効果があったことが検証と調査により明らかになった。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】

関係資料を基に、引き続き学生の修得目標の達成度合いにおける見直しに取り組む

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

企業が重視するのは「主体性」「柔軟性」「実行力」であるため、本学科のDPIに沿った教育を整備し、企業で重視される資質・能力を鍛える環境作りにつながる。また、キャリアサポートセンターの就職活動に有用なサービス（例、全員面談）の周知を引き続き続ける。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

専任会議などにて、学科全教員に対して授業評価アンケートを踏まえた授業改善の発表を行い、グッドプラクティスを共有した。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内に情報を共有している

【特筆すべき取り組み】

学科会議において前年度の授業評価に関する勉強会が行われた。コリア語コースの教員が前期の授業評価アンケートの結果を分析し、その結果を基に授業の進め方を見直すことで、後期の授業評価アンケートの結果の改善に繋がった事例を報告した

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

必修英語覚書、必修英語共通シラバスの年度ごとの修正、配布

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

【特筆すべき取り組み】

多言語コースでは、各コースごと1年次と留学後の3年次の語学検定の受験率と目標達成率を継続的に調べており、この結果を授業のレベルや構成に反映させている。スペイン語コースでは検定合格率を上げるため、2024年度より1年次の必修語学科目の一つを検定対策に充てている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】

修得目標のD-13～16に紐付けられている科目を、留学で得られる異文化交流の経験をより踏まえたものとなるように検討している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】

進路報告登録をより確実に行うため、多言語コースの実施科目をセミナー（選択必修科目）からプレゼンテーション（必修科目）に変更した。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

学科会議後に、全学科教員に対して授業評価アンケートを踏まえた授業改善事例の発表を行い、グッドプラクティスを共有した。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

【特筆すべき取り組み】

学科会議において前年度の授業評価に関する勉強会が行われた。コリア語コースの教員が前期の授業評価アンケートの結果を分析し、その結果を基に授業の進め方を見直すことで、後期の授業評価アンケートの結果の改善に繋がった事例を報告した

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【特筆すべき取り組み】

コリア語コースでは専任教員が主導して、必修言語科目のシラバスを1年次から4年次に至るまで統一的体系的に作成することを継続している。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

コリア語コースでは、言語必修科目における統一シラバスの作成及び講師会における周知の徹底を継続している

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・確認をしている

【特筆すべき取り組み】

総合的な学習成果、教育成果の評価のため、学科独自の“Can-doアンケート”を2022年入学生対象に開始、以降の年度の入学生ならびに上級生にも継続的に実施している。このアンケートを通じて、言語能力（DP1）と異文化理解能力（DP2）の向上を測定している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、他学部・他学科と比較した際の自学科の位置づけを確認している

【特筆すべき取り組み】

2024年度より、国際日本学科の科目を含む日本語教員養成新課程を導入した。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析している

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

2025年度は高等教育開発センターのSoTLプロジェクトとして「国際日本学を学ぶ」の内容の調整や統一を図る取り組みを進めている。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】

ディプロマポリシーに紐づけた学修目標の主観的達成度を教育学部学生生活実態調査で継続的に調査し、その結果を年度初めの学部FDで共有・議論している。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】

学生の主観的な達成状況については、教育学部が毎年実施している学部学生生活実態調査によって調査が行われている。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】

学生の主観的な達成状況については、教育学部が毎年実施している学部学生生活実態調査によって調査が行われている。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】

企業が重視する3項目と対応するものとして、「コミュニケーション能力」「人の前でわかりやすく説明する力」「異なる意見を持つ他者と合意形成し協働する力」「自分で主体的に学ぶ力」といった学修成果について、学生の主観的な達成状況を教育学部が毎年実施している学生生活実態調査によっても把握している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

学修時間や学修への取り組み等に関して教育学部学生生活実態調査でも把握している。経年比較の結果や各学年の特性などをFD研究会で共有し、教員同士のディスカッションを行うことで各教員の対応を検討する機会としている。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

【特筆すべき取り組み】

必修科目の教育学入門、ライフデザイン演習、教育研究リテラシーについて、教育学部が毎年実施している学生生活実態調査において簡潔な評価を求め、学科内で結果の共有を行っている。また1年次、2年次の必修演習担当教員は学科会議後などに定期的に打合せを行い授業運営の改善方策等を検討している。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

- ・2年時必修の演習科目「教育研究リテラシーI,II」では、以前より担任団で共通のシラバスを作成し、講義内容についてもすべて統一している。
- ・2022年度より、カリキュラムマップの習得目標策定時において、同一科目担当者間で目標選択を統一するよう依頼し、その結果を完成版に反映させている。2023年度開始時点では、同一の習得目標に紐づく科目における学習内容の過不足や重複にかんして、担当教員間で調整をおこえるよう前年度から周知をしている。今後もシラバス作成時期等において、教員間での整合性の調整を会議等を通じて周知し続ける予定である。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

【特筆すべき取り組み】

昨年度、初等教育・こども教育両コースのカリキュラムマップにおける修得目標の齟齬を解消した。今年度は、主要科目の選定及び主要科目に適する修得目標との関連を中心に見直しを行い、一部修正を加えた。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

昨年課題として浮き彫りになった初等教育・こども教育両コースのカリキュラムマップにおける修得目標レベル2の齟齬を解消するため、学科としてすり合わせ作業を行い、両コースの修得目標間に対応関係を構築する形でカリキュラムマップを改訂し、引き続き運用している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

引き続き学科のディプロマポリシーを反映した修得目標と関連する資質・能力の主観的達成度を教育学部学生生活実態調査で継続的に調査し、その結果を学部FD研究会等で共有・議論している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】

各授業科目の中で、当該科目の目標が修得目標にどのように関連しているのかを説明し、学生の自覚を促すように働きかける取り組みを継続している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】

長期的な職業継続を視野に学生全員と1対1で就職に関する面談を実施し、特性等に合わせた支援を実践している。それにより、量的な充足だけでなく質の面でも十分な配慮ができるようになっている。また、教職センターとの連携により、OB・OGと学生を繋げたり、卒業生に対して、卒業後も必要な支援をするなどその後の就職につなげている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行い、成果を確認できている

【特筆すべき取り組み】

教育学部独自に「学生生活実態調査」を毎年度実施し、その分析成果を翌年度4月に開催される第1回FD研究会で共有している。2023年度の「教育学部学生生活実態調査」を踏まえた2024年度第1回FD研究会については、事後アンケートの結果「学科・コースの課題について共有できた」「授業改善へのヒントを得られた」「学生指導の在り方を再考する機会となった」という3項目に対する「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答率の和の平均は95%以上の高い数値を獲得している。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内に情報を共有している

【特筆すべき取り組み】

2023年8月21日(月)に第2回FD研究会「授業について語り合う」を開催した。事後アンケートの結果、「授業改善へのヒントを得られた」「学生指導の在り方を再考する機会となった」という2項目に対する「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答率の和の平均は、満点の100%を獲得している。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【特筆すべき取り組み】

2025年度からの初等教育学科改変に向け、修得目標とシラバスの確認作業を教務委員会を中心に学科として進めている。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

こども教育コースでは、初年次教育科目としての「ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」における5つの修得目標に紐付く授業の到達目標を意識して担当者間で授業内容を見直し、統一した授業計画を作成して2024年度シラバスに反映させた。初等教育コースでは、統一した授業計画のシラバスへの反映を2025年度入学生から適応すべくその修正を進めている。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

【特筆すべき取り組み】

昨年度、初等教育・こども教育両コースのカリキュラムマップにおける修得目標の齟齬を解消した。今年度は、主要科目の選定及び主要科目に適する修得目標との関連を中心に見直しを行い、一部修正を加えた。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

昨年課題として浮き彫りになった初等教育・こども教育両コースのカリキュラムマップにおける修得目標レベル2の齟齬を解消するため、学科としてすり合わせ作業を行い、両コースの修得目標間に対応関係を構築する形でカリキュラムマップを改訂し、引き続き運用している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

引き続き学科のディプロマポリシーを反映した修得目標と関連する資質・能力の主観的達成度を教育学部学生生活実態調査で継続的に調査し、その結果を学部FD研究会等で共有・議論している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】

各授業科目の中で、当該科目の目標が修得目標にどのように関連しているのかを説明し、学生の自覚を促すように働きかける取り組みを継続している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】

長期的な職業継続を視野に学生全員と1対1で就職に関する面談を実施し、特性等に合わせた支援を実践している。それにより、量的な充足だけでなく質の面でも十分な配慮ができるようになっている。また、教職センターとの連携により、OB・OGと学生を繋げたり、卒業生に対して、卒業後も必要な支援をするなどその後の就職につなげている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行い、成果を確認できている

【特筆すべき取り組み】

教育学部独自に「学生生活実態調査」を毎年度実施し、その分析成果を翌年度4月に開催される第1回FD研究会で共有している。2023年度の「教育学部学生生活実態調査」を踏まえた2024年度第1回FD研究会については、事後アンケートの結果「学科・コースの課題について共有できた」「授業改善へのヒントを得られた」「学生指導の在り方を再考する機会となった」という3項目に対する「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答率の和の平均は95%以上の高い数値を獲得している。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内に情報を共有している

【特筆すべき取り組み】

2023年8月21日(月)に第2回FD研究会「授業について語り合おう」を開催した。事後アンケートの結果、「授業改善へのヒントを得られた」「学生指導の在り方を再考する機会となった」という2項目に対する「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答率の和の平均は、満点の100%を獲得している。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【特筆すべき取り組み】

2025年度からの初等教育学科改変に向け、修得目標とシラバスの確認作業を教務委員会を中心に学科として進めている。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

こども教育コースでは、初年次教育科目としての「ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」における5つの修得目標に紐付く授業の到達目標を意識して担当者間で授業内容を見直し、統一した授業計画を作成して2024年度シラバスに反映させた。初等教育コースでは、統一した授業計画のシラバスへの反映を2025年度入学生から適応すべくその修正を進めている。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析している

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知する機会を設けている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行い、成果を確認できている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】

科目によって単位修得率やGPA平均が低いことに関しては現状と原因を教科担当者と面談し、改善を求めている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】

学科独自にLMS上で学修行動調査アンケートを実施している。（2022年度1年生21.5%から2023年度99.1%に増加）

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】

就職支援の強化を学科の目標とし、期初面談で各教職員に取り組みを明示し、実践して頂いている。3年後期から学科独自のキャリアの授業（キャリア形成準備）を開講し、5年連続で10月に就活を完了している。2年次と3年次の初めのガイダンスなどを活用して、履歴書や学チカを担当が指導し、準備を進めている。毎月の学科会議で就職委員主導のもと、就職率向上に向けて組織的に就活の支援を強化している。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

学科棟に学生の自習室を設け、解放し講評を得ている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が50%以上であり、結果の向上の取組として、学科内で共有した情報を、他学科に対しても発信している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】

学科内で在学生のアンケートや入学生のアンケート、OCのアンケートなどを取り入れ新コースに向けてのカリキュラムを編成した

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

1年生からコミュニケーション能力を発揮できるように「ラポインターンシップ」を開講し、卒業研究の早期着手をおこなった。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格者を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】

卒業研究の早期配属（ライフデザイン6のカリキュラム化）。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

【特筆すべき取り組み】

昨年度と同様に、教員には初回の授業で修得目標と到達目標をアナウンスするとともに、すべての科目でLMSに修得目標と到達目標を記載した。各分野（植物、食品・化学、微生物、動物）の履修モデルを1年前期の履修登録時に配布し、自分の進みたい分野の講義と実習系科目の紐づけや可視化をおこなった。また、修得目標が理解できるように前期後期のガイダンス時にシラバスをよく読んで履修登録をするように指導した。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【特筆すべき取り組み】

前期、後期のガイダンス時にシラバスの重要性を説明して、シラバスをよく読んでから履修登録をすることように説明した。また、すべての科目でシラバスの到達目標の項目に修得目標の簡潔表記（例：一般教養）を記載して、修得目標と到達目標の関連がわかりやすいようにした。さらに、すべての専門科目のLMSに修得目標と到達目標を見やすいところに掲載した。昨年に引き続き、全教員によるシラバスの相互チェックを行った。チェックの分担は昨年度の科目からは変更し、より多くの他の教員のシラバスがチェックできるようにした。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

卒業研究、主要な学生実験（生化学実験、微生物学実験、生物有機化学実験、食品科学実験、動物生理学実験、環境衛生学実験）、一部講義系科目（生命機能学、バイオテクノロジー入門の一部）では昨年度に引き続きルーブリックを使用してレポートの成績評価を行っている。また、2025年度から始まる新学科で全コース共通で開講される化学1、化学2については担当教員で協議し、シラバスや教科書、評価方法を統一することを決めた。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、他学部・他学科と比較した際の自学科の位置づけを確認している

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行い、成果を確認できている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】

1) lms使用について：基礎学力の向上を目指し、共通及び専門一般分野（1点問題）の問題をオンデマンドで実施出来る様に整備している。問題は、過去17年分ブルされており、その中から各分野「50問」抽出され、30分間で終了する様に設定し、「速読力」の向上を目指している。

2) 実地問題について：3点問題（専門実地）の正答率を上げる事が、合格に直結する為、試験直前の1月中に各専任教員が集中講義を実施している。対象は、基本全員ではなく各分野の正答率下位学生としている。また、今年度より実地分野の業者模試が実施されるため、他の業者模試と同様に受験予定である。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】

各科目において、修得目標との紐づけや到達目標が変更された場合には、「カリキュラムマップ__到達目標入り」を更新して確認している。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

同一修得目標に紐付いている基礎理学療法学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、理学療法学総合演習については、基本的に毎年内容を学科会議にて確認し、調整を図っている。これらの科目は学科として統合的な重要科目として位置づけている科目である。また、同一科目を複数の教員で担当する科目である理学療法学入門セミナー、チーム医療、臨床技能演習、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲなどは、毎年内容を学科会議にて確認し、調整を図っている。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】

- ・修得目標数と内容の重複についての適正化を行った
- ・一部修得目標の表現について修正を行った

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

修得目標に対する科目数が少ない項目については是正した。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

修得目標に対する科目ごとの到達目標について整合性の確認を行い調整した。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】

- ・基礎医学について正規カリキュラム外での補講、学修時間を設定し、組織的に強化を行っている。
- ・学修ポートフォリオにて目標設定や振り返りを学生個別に面談を設け指導している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

- ・低学年でのマナー講座の実施
- ・国家試験対策についてはカリキュラム外での学習指導を徹底している

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

各学年毎に学習ゼミを時間割内に設け学習方法等の指導を行っている。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【特筆すべき取り組み】

- ・修得目標と科目ごとの到達目標の整合性について確認し修正を行った
- ・同一修得目標に紐づけられた科目の関係性を明確にし調整を行った

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

シラバス作成時に同一科目や同一修得目標に関わる教員にて打ち合わせを行い調整している

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系的・有効性の確保

① 修得目標に対する体系的の確認

カリキュラムの体系的を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【特筆すべき取り組み】

科目担当者に修得目標と科目との関連の調査を行った。また、カリキュラムマップの反映については全学科教員の合意を得て設定を行った。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【特筆すべき取り組み】

各領域で開講している科目（概論・援助論・実習）などの特性を踏まえて統一的にカリキュラムマップに修得目標の反映を行った。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】

看護師国家試験合格に向けて、4年間の年間計画の基、1年の早期から取り組んでいる

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析している

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内で情報を共有している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている。

【評価理由】

毎年見直しをして更新しており、表現等は分かりやすく改善されていると考える。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】

カリキュラムマップの修得目標の紐づけと科目の内容を確認し、現状把握・分析が出来ている。

【特筆すべき取り組み】

国家試験を受験しないで卒業する学生は、救急車同乗実習や病院実習を受講しないため、修得目標を全て網羅出来ない状態にあった。そこで、救急車同乗実習や病院実習に代わって選択する科目（「病院前医療学Ⅰ」「病院前医療学Ⅱ」「救急現場学Ⅰ」）のカリキュラムマップの修得目標を再考した。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】

科目担当者に確認し、現状把握・分析が出来、対応出来ている。

【特筆すべき取り組み】

科目担当者に自分の担当している科目が「救急救命士テキスト10版」において、どの分野を担当しているかを調査し、担当科目の範囲の再確認を行った。また、表にすることで、他の教員がどの分野を講義しているか視認出来、担当科目の役割も再確認出来た。「救急救命士テキスト11版」が2024年3月下旬に発売予定のため、次回もやっていきたいと考える。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【評価理由】

現状把握に留まっている。課題は把握しているが、教員も自身もどのように活用したら良いかが定まっていない。

【特筆すべき取り組み】

学修ポートフォリオの現状把握と合せて個人面談を実施している。学年ごとの学生情報等をコース会議（毎週火曜日）で全教員で共有している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【評価理由】

現況を把握し、公務員の就職率向上がみられるため。

【特筆すべき取り組み】

板橋キャンパスとの比較を実施した。板橋キャンパスでは2年生の後期に公務員科目の「数的推理」を実施し、結果を出している。2年生の後期で実施しているため、早目に準備が行えるため、福岡キャンパスでも公務員科目の実施をやりたい。また、LMSを活用して、就職情報の共有をさせていただいた。今年は国家試験の模試も板橋キャンパスにお願いし、同じ模試問題を同じタイミングで行う試みをしている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

【評価理由】

現状把握に留まっている。

【特筆すべき取り組み】

2026年から公務員試験の一般教養で大きなウエートを占める「数的推理」を、板橋キャンパスと同様に講義内に取り入れる検討をしている。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内で情報を共有している

【評価理由】

所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、コース会議等で情報共有が出来ているため。

【特筆すべき取り組み】

1週間に一度のコース会議等で情報共有が出来ている。各学年・各科目の出席状況、学習状況を共有している。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【評価理由】

現状把握を行い、各担当者を含めてフィードバックを実施した。

【特筆すべき取り組み】

週1のコース会議で情報共有を徹底している。現在は教務委員会を中心にシラバスチェックを行っているが、今後は全員でチェックを行える様に出来ればと考える。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】

主担当の教員をメインに、教員毎で教えている内容に差がない様に心掛けている。

【特筆すべき取り組み】

実習においては、担当している教員間で受け持ちの班（学生）を交替する事で、教員によって教える内容が違うという事を心掛けている。また、SA（学生アシスタント）を活用する事で、学年間での教える内容にも差が出ない様に心掛けている。

2024年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【評価理由】

現行の修得目標は2023年度入学生の新カリキュラムに合わせた修得目標であり、教員間において十分に議論したうえでの策定であったことから、もう少し経過観察する必要があり、現時点では見直す必要はないと思われる。
ただし、改善点があれば直ちに対応できる体制をとっている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】

現時点においては改善すべき課題はないが、課題が露見すれば直ぐに改善等の対策を検討する体制にしている。
また、本コースは、国家試験受験のためのコースであることから、厚生労働大臣指定科目を中心に修得目標との整合性を加味して配置している。
したがって、修得目標に対して網羅的に配置されているか検証することはもとより、当然のことながら教員各自が担当する科目の修得目標はシラバスに提示し、かつ授業においても説明するように指示している。

【特筆すべき取り組み】

教員各自が担当する科目の修得目標はシラバスに提示し、かつ授業においても説明するように指示している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】

①の理由と同様であり、国家試験受験のための科目が中心に配置されていることから有効性については常に全教員が把握している。
現時点においては改善すべき課題はないが、課題が露見すれば直ぐに改善等の対策を検討する体制にしている

【特筆すべき取り組み】

課題が見つければ直ぐに改善等の対策を検討する体制にしている。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【評価理由】

学修成果は、以前より留年者が減少していることから、向上していると考えられる。
GPAについては国家試験対策や就職活動、卒業研究選択の目安として活用している。また、教員間でGPA平準化の協議も行った。
ポートフォリオ有効利用については、100%の入力を維持しているが、解析の検討はしておらず今後の課題とする。

【特筆すべき取り組み】

・ポートフォリオ入力100%を維持させるとともに、入力結果を分析し学生指導に活かしたい。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【評価理由】

国家試験高合格率を維持するため、国家試験対策委員である教員が、成績上位層、中間層、下位層に分類し、特に下位層について綿密な個人指導を行い合格まで導いている。

【特筆すべき取り組み】

成績下位層を早期に中間層へと導く手法を検討する。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

【評価理由】

FD委員会、自己点検・自己評価委員により以下の学修行動調査のデータを分析し、このコース会議において「学修時間の少なさ」について協議し、学生に注意喚起することで合意している。したがって学修時間の向上対策が課題となる。

【特筆すべき取り組み】

学修時間を向上させるための具体的対策を検討する。（例：課題を与える等）

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を所属するすべての専任教員が「アクションプランシート」に反映している

【評価理由】

平均回答率は4の50%以上であるが、学科内教員間での情報共有はしていないことから2とした。学内平均よりも下回った科目の教員については数値を向上するように会議において促している。

【特筆すべき取り組み】

学科単位の評価平均値を学科教員で共有し、平均値と比較することで意識付けを行う。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【評価理由】

シラバスの作成については、FD委員会を中心にシラバス作成に関する講習会やガイドラインに基づいて全教員に周知している。

【特筆すべき取り組み】

学科として落とし込みについて把握するとともに、修正点があれば全教員で共有し対応を行う。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】

資料1、資料2に記載されたコース会議において、ガイドラインや留意事項、カリキュラムマップ等を参照のうえ教員間で情報共有し、シラバス作成を行っている。また、教務委員会を中心とした第3者からのシラバス校正を行っている。

【特筆すべき取り組み】

教務委員である教員が、科目担当教員のシラバスについて確認し、修得目標への落とし込みを確認する。